





## GBIF新ポータルサイトに15万人超の訪問客

10月に公開された**[GBIFの新規ポータルサイト](#)**には、公開から2ヶ月間で15万7千人近い訪問客が訪れました。国別で来訪者が最も多かったのは、アメリカで、次いでイギリス、スペイン、メキシコ、ドイツの順となっています（下表）。

Country / Territory	Visits	% Visits
1.  United States	41,885	20.16%
2.  United Kingdom	10,997	5.29%
3.  Spain	9,166	4.41%
4.  Mexico	8,655	4.16%
5.  Germany	8,510	4.10%
6.  Canada	7,626	3.67%
7.  India	7,313	3.52%
8.  France	6,811	3.28%
9.  Brazil	6,685	3.22%
10.  Italy	5,101	2.45%

新規ポータルでは、GBIFネットワークにより共有される全データにアクセスが可能となった他、GBIF関連機関や団体に関するニュースや情報に加え、データを研究に活用する方法などが掲載されています。このサイトには、リアルタイム・インデキシング・システムが新たに採用され、データ保有機関が新規データセットを公開すると、数分から数時間の内に表示されるようになりました。

10月9日にドイツのベルリンで開かれた第20回GBIF理事会会で発表されて以来、9659回のダウンロードが行われ、ダウンロードされた総データ数は528億件にも及びます。

新ポータルサイトの立ち上げを発表したビデオは、<http://vimeo.com/77782067>からご覧頂けます。

### 第20回GBIF理事会（ベルリン） 2

2014年事業計画—データ品質の向上を目指して

新理事会議長選出される

2013年GBIF科学シンポジウム開催される

強固なノード活動を目指したトレーニングセミナー・会合

### 国際政策 3

CBD—生物多様性に関する目標達成にGBIFが果たす役割を強調

IPBES—評価方法を開発し、データ作業部会の立ち上げに合意

### 公表データ 4

生物多様性データ公開に新たなジャーナル参入

語彙管理タスクグループによる報告書公表される

### 新規データ 4

南極

フランス

スペイン

ノルウェー

コロンビア

### GBIFネットワーク内外の活動 5

イギリス—野生生物マッピングシステムが更新される

アイルランドGBIFノード5カ年計画を発表

台北—オープンデータ会議の資料公開される

地理情報参照システム操作法の学習コンテンツがオンライン化

### 公募情報 6

GBIF事務局が科学ライター募集

### 今後のイベント予定 6

## 第20回GBIF理事会（ベルリン）

### 2014年事業計画—データ品質の向上を目指して

[第20回GBIF理事会](#)（GB20）では、ネットワークを介して公開される生物多様性データの品質を確保するという長年の懸案事項を新規事業として取り組むことに決定しました。

新規データの利用を推進し、情報資源の活用を図るという優先課題に加えて、データの品質を向上し、永続的な価値を高めることは、今回[一般に公表](#)された新規プログラムの中心テーマとなっています。

2014年の事業活動は、[2012年–2016年GBIF戦略計画](#)の内容を反映した3ヶ年計画の一環として実施されます。2012年–2016年GBIF戦略計画では、情報コンテンツを向上し、インフォーマティクスを強化し、科学および社会の発展に貢献できるようにかかわりを強めることが中心課題となっています。

今回の事業計画で目標とする達成成果については、[こちら](#)をご覧ください。

### 新理事会議長選出される

GBIF理事会は、新議長として、ピーター・シャルク（Peter Schalk）氏を選出しました。

シャルク氏は、オランダ・ライデンにある[ナチュラリス生物多様性センター](#)において、ICTセクションの責任者を務めています。氏は、地球上で確認された生物種リストである『[カタログ・オブ・ライフ](#)』を作成したプロジェクト「スピーシーズ2000」の発起人の一人でもあります。

議決権を有する参加国（GBIFの分担金を拠出している国）による投票によって選出された後、シャルク氏は、次のように語りました。「設立から10年以上が経過した今、GBIFは成功を収めています。我々は、そのことを自覚すると共に、誇りとすべきと思います。現在、5億件近いデータが利用を目的として公開されています。これらのデータは、科学発展の下地となり、環境政策の拠り所となり、地球の将来の礎となります。

「GBIFは、何百万というユーザを擁し、しかもその数は急速に増加しています。しかし、このような成果には、それに伴う犠牲も必要となります。GBIFが提供するサービスを頼りとする人々がこれからどんどん増えてくるのに伴い、我々の責任も増大します。」

シャルク氏は、GBIFネットワークによるサービスの信頼性を高め、持続可能なシステムとするためには、GBIFに関わる人々による積極的な関わりが必要であると述べ、そのためには、実現可能な事業計画が必要であると考えています。

シャルク氏は、4年の任期を全うしたジョアン・ダリー（Joanne Daly）氏の後任として、10月から着任します。

理事会では、イギリスのグラスゴー大学分類学教授であるロデリック・ページ（Roderic Page）博士をGBIF科学委員会の議長として新たに選出しました。博士は、レオナルド・クリシュタルカ氏の後任となります。

詳細な記事は、[こちら](#)から読むことができます。

### 2013年GBIF科学シンポジウム開催される

今年の科学シンポジウムは、「活動するGBIF—持続可能な社会を目指す生物多様性科学の推進」と題して、GB20にあわせて2013年10月9日に開催されました。

シンポジウム講演者は、GBIFにより提供されるデータの活用方法についてプレゼンテーションを行いました。2013年のエビー・ニールセン賞受賞者である[ミゲル・バストス・アラウホ氏](#)が基調講演を担当しました。

[シンポジウムのプレゼンテーション資料](#)は、オンラインにより入手可能です。また、アラウホ氏の講演ビデオは、<http://vimeo.com/78160183>からご覧頂けます。

### 強固なノード活動を目指したトレーニングセミナー・会合

[GBIFノード委員会](#)では、GB20に先立つ10月4～7日の期間に、第12回目のグローバル会合および関連活動を開催しました。

その皮切りとして、2日間のトレーニングセミナーが開かれ、40の加盟国や機関から59名が参加しました。このセミナーの内容は、2011年から2012年にかけて各ノードから出された要望に基づくものであり、ノードの管理方法、データ活用の推進方法やGBIFが開発した新規ツールに関するテーマが扱われました。

第12回ノード委員会は、10月6～7日に開催され、主要なノード活動に関する経験が分かち合われる場となりました。具体的には、データ品質を確保する方法、ノードによるポータルサイトの開発、ノードの開発計画の作成や、技術協力関係の推進などが討議されました。

今回出席した参加者の感想からは、内容、トレーニング方法、セミナーでのやりとり、組織運営やノード会合で取り上げたテーマに極めて満足している様子が伺われました。

トレーニングセミナーの報告書は、<http://community.gbif.org/pg/file/read/38195/>からダウンロードできます。また、会合に対する事後評価結果は、<http://community.gbif.org/pg/file/read/39963/evaluation-report-12th-global-nodes-meeting>にあります。



ヒューゴ・フォン・リンストー (Hugo von Linstow) 氏は、GBIF事務局次長を11年勤めた後に、12月に退職しました。氏は、2001年のGBIF設立およびコペンハーゲン事務局の立ち上げに尽力しました。経験豊かなリンストー氏がGBIFを去ることは、GBIFコミュニティにとって大きな損失です。

## 国際政策

### CBD — 生物多様性に関する目標達成にGBIFが果たす役割を強調

生物多様性条約 (CBD) の科学諮問委員会において、政府専門家は、「愛知ターゲット」の達成に向けて、データアクセスを向上する必要性を強調しました。

10月カナダのモントリオールで科学技術助言補助機関会合 (SBSTTA) が開かれ、2011年-2020年戦略計画の実施に必要な主要項目のうち、「アクセス性及び経済性に優れ、信頼性が高く、総合的な情報の流れ」が重要であると指摘しました。

会議の報告書では、ディアスCBD事務局長に対して、GBIFその他の機関と協力して、生物多様性に関するデータ、情報や知識の活用、管理および分析を行えるシステムを地域や国レベルで設立すべきことが要請されました。会合開催冒頭の挨拶において、ディアス事務局長は、GBIFが関与している地球規模生物多様性情報アウトルック (GBIO) の枠組みに従い生物多様性データに対するアクセスを促進するために、「協力関係の継続」が重要であると訴えました。

ディアス氏は、GBIF が去年コペンハーゲンで開催し、GBIO 文書作成につながったこの「画期的な会議」について言及し、次のように結論づけています。「愛知ターゲットの目標 19 (生物多様性に関する知識の改善と共有) を始めとする全目標を達成するためには、この会議の成果を発展させて、継続的な協力関係や事業を行うための新たな枠組みを造る必要があると考えます。」

詳細な記事は、[こちら](#)から読むことができます。

### IPBES — 評価方法を開発し、データ作業部会の立ち上げに合意

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) は、切迫した環境問題に関して政策決定の際に参考となる一連の評価方法を公表すると共に、データおよび情報不足を補う作業部会を設置することとしました。

トルコのアンタルヤで開催された第二回総会において、2014~18年を事業期間とした最初の事業計画が承認されました。総予算は、4350万ドルであり、評価、能力強化、知識創出および政策決定に役立つ手段の開発という IPBES の使命を遂行します。

GBIF コミュニティーにとって特に関連がある決定事項としては、IPBES に作業部会の設置が決議されたことがあります。この新たな組織は、以下の活動を実施することとされました。

- IPBES 事業計画に際して不足するデータや情報を収集する最善の方法を特定するために、データ・情報管理計画を策定すること。
- IPBES が結果をまとめる際に用いるデータ、情報および知識の取扱いに関し、事務局の監督機能を支援し、成果物の有効性が長期間持続可能とすること。
- 既存データ、情報および知識に対するアクセスを増加できる機会を特定し、アクセスを確保することによって IPBES の働きに役立てること。
- データ標準化に関する助言を行うこと。
- 知識が必要とされている領域や知識が不足している分野に関し、IPBES の諸委員会が見直す際に支援を行い、新規知識やデータの創出を促進すること。

詳細な記事は、[こちら](#)から読むことができます。

## 公表データ

### 生物多様性データ公開に新たなジャーナル 参入

新たなジャーナルの参入により、GBIFネットワークを介して公開される生物多様性データセットが更に人々の目にとまる期待が高まりました。

GBIFでは、新たなオンライン学術誌『[サイエンティフィック・データ](#)』誌の編集者と打合せを進めています。この雑誌は、ネイチャー・パブリッシング・グループ発行によるもので、2014年3月に刊行を開始する予定になっています。「データ・デスクリプター」と呼ばれる新たなコンテンツを導入する計画が進められており、これによって、科学的に価値のあるデータセットが、更に見つけられやすくなると共に、解釈が容易になり、再利用性が高まります。

データ・デスクリプターは、GBIFおよび[ペンソフト・パブリッシャー](#)が推進してきた「[データペーパー](#)」というコンセプトと非常に似通ったものです。今回の協力関係によって、新ジャーナルに論文を投稿する研究者は、いままでと同じように、GBIFネットワークを介したデータ共有の際に推奨されている標準的なメタデータ形式を用いることが可能となります。

詳細な記事は、[こちら](#)から読むことができます。

### 語彙管理タスクグループによる報告書 公表される

2012年から2013年の期間活動を行ったTDWG語彙管理タスクグループ (VoMaG) の成果をまとめた[報告書](#)が公表されました。

GBIFは、このタスクグループの招集・調整に主導的な役割を果たしており、欧州連合の資金供与により設立された[ViBRANT](#)の支援を受けた活動の成果を活用しています。このタスクグループは、語彙やオントロジーの管理に関するテーマについて、[生物多様性情報標準策定委員会](#) (TDWG) に対して勧告を行っています。

タスクグループの成果は、10月にイタリアのフィレンツェで開催されたTDWG年次総会に併せて開かれた[シンポジウム](#)においても披露されました。

## 新規データ

### 南極

[南極大陸生物多様性情報機構](#) (ANTABIF) は、2004年に南極海の海域の一つであるロス海で収集した[軟体動物のデータ](#)を公開しました。標本は、ラウシャー・ドレッジ (Rauschert dredge) と呼ばれる、金属製フレームに二組の網が取り付けられた器具を用いて採取されました。

公開されたデータは、オオシイノミガイ科 (Acteonidae)、コロモガイ科 (Cancellaridae)、カツラガイ科 (Capulidae)、タマガイ科 (Naticidae)、トウガタガイ科 (Pyramidellidae) やアクキガイ科 (Muricidae) を含むナマコ、二枚貝や巻貝に関するものです。

### フランス

市民参加型科学プラットフォームである[ダイブボード](#) (Diveboard) は、10万人近い登録ダイバーが提出した「[電子ログブック](#)」から、[15,000件を超えるデータ](#)を公開しました。このデータセットには、世界中の海洋や内陸水域でダイビングを行った際に観察された生物の分布状況が記録されています。

ダイバーから生物観察結果報告が増えるのにつれて、GBIFの新しいリアルタイム・インデキシング・システムによりデータの更新が行われるため、報告者が入力してから数分～数時間後には、ポータルに新規データや修正箇所が表示されます。ダイブボードは、このシステムを利用してインデキシングを行う新規データセットの第一号となりました。

ダイブボードの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

### スペイン

[シエラネバダ気候変動観測所](#)では、南スペインにあるシエラネバダ山脈のうち、グラナダ近郊の森林で観察した[8,000件近い植物種の記録](#)を発表しました。今回のデータは、気候変動が山脈の生態系に及ぼす影響を調べる長期研究プロジェクトの一環として、2004年に作成された生物種目録から取られたものです。地中海西部地域において、山脈は、最も多様な植物が棲息する地域に挙げられています。

バレンシア大学[微生物学・生態学科](#)では、甲殻類のうち貝虫類について、[3,500件の地理参照付データ](#)を公開しました。

スペイン海洋学研究所の傘下にある[ギホン海洋学センター](#)では、南極海探検の際に収集した[700件を超える海綿データ](#)を公表しました。標本は、ドレッジ、底引き網や魚網などさまざまな採取具により収集したものです。

### ノルウェー

[ベルゲン大学博物館](#)では、虫類コレクションのうち昆虫およびクモ類の標本に関する[72,000件のデータ](#)を公開しました。データは、全て地理参照されており、1987年から2012年にかけて収集された標本と関連づけられています。

### コロンビア

コロンビア鳥類観察者ネットワーク ([La Red Nacional de Observadores de Aves de Colombia - RNOA](#)) は、1948年から2011年の期間に観察された[40万件を超える鳥類データ](#)を公表しました。

データは、国中で行われた様々な観察活動によるものであり、絶滅危惧種のアカシヤクケイ (*Penelope perspicax*)、絶滅寸前種であるアオコブホウカンチョウ (*Crax alberti*) の他、アイバネインコ (*Hapalopsittaca fuertesi*) などの地域固有種が含まれています。これらのデータは、GBIFのグローバル・ポータルサイトおよびコロンビアの国立データ・ポータルサイトから入手可能です。

バジェ大学は、アンデス西部カリ市にあるファラジョネス国立自然公園のうち、立ち入り可能区域で観察された2,300件の鳥類データを公開しました。観察は、エル・トパシオとエル・プラトの2地点で2008年8月から2009年7月の期間に実施されました。合計で157種の鳥類が観測され、そのうち12種はこの地域で初めて報告されたものでした。1978年にエル・トパシオで記録された9種については、確認できず、危惧種または地域的に絶滅した種であると考えられています。今回のデータにより、鳥類棲息地の分断化により悪影響が生じていることが示されています。

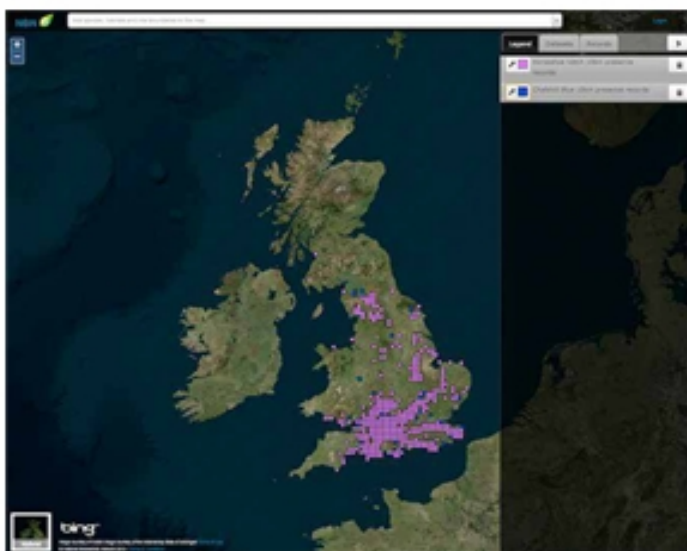
更に、バジェ大学では、コロンビアカリブ海沿岸のオレンジ果樹園に棲息するアリ類3,000件超のデータも公表しました。このデータは、当該地域を管轄する4県内にある38果樹園に対して実施したサンプリング調査によるものであり、果樹園に棲息するアリ類の多様性を垣間見ることができます。

## GBIFネットワーク内外の活動

### イギリスー野生生物マッピングシステムが更新される

イギリス国立生物多様性ネットワークのポータルサイトであるNBNゲートウェイでは、機能および安定性向上を目的としたシステム更新を行いました。

このポータルサイトからは、およそ1億件のデータにアクセスでき、そのうち4千2百万件は、GBIFからもアクセス可能です。



今回の改善により、データ検索にフィルター機能を付与すると共に、インタラクティブなマップの導入により、複数のデータの検索や複数種のマップ作成が可能となりました。また、データ・セキュリティの向上を図ると共に、データ利用法に関する詳細な情報を提供できるようになりました。更に、新たなサーバーの導入によって、増大するNBNゲートウェイのデータ量や使用頻度にも対応できるようになりました。

データ利用に関し、『NBNゲートウェイ利用規程』が定められており、データ提供者およびデータ利用者それぞれの責任が明確にされています。

NBNゲートウェイからは、欧州連合の空間情報基盤 (INSPIRE) 指令に準じた形式でデータが提供されています。この指令の目的は、公的機関が保有する環境データおよび空間データを統合し、共有を推進することによって、国内および国際レベルにおける環境保護政策の立案・実施を支援することにあります。

NBNは、イギリスにおけるGBIFノードであり、政府組織、研究機関、地域にあるデータセンター、自然保護団体および観察活動を行う諸組織の協力により運営されています。詳細については、NBNのマンディー・ヘンシェル (Mandy Henshell) 氏 ([support@nbn.org.uk](mailto:support@nbn.org.uk)) にお問い合わせください。

### アイルランドーGBIFノード5カ年計画を発表

アイルランド芸術・文化遺産・ゲールタクト省ジミー・ディーニハン大臣は、アイルランドGBIFノードである国立生物多様性データセンター (NBDC) の2013年から2017年戦略計画を正式に発表しました。この計画では、NBDCの戦略目標と共に、今後5年間の詳細な事業案が示されています。

NBDCの主要7戦略目標は、データ活用の推進、変化の追跡、データに基づいた政策決定、戦略的協力関係の開発、国際協力の推進、情報伝達網の整備およびデータベースの強化であり、GBIFと密接なつながりのある内容となっています。

また、NBDCは、国の絶滅危惧種リストであるアイルランドレッドリストを作成する際の指針を国の基準として作成しました。

この文書は、「生物多様性データの基準および指針の策定」に向けてNBDCが準備している一連の報告書の第一号です。

NBDCは、アイルランドにおけるガの観察記録に多大な貢献をした業績により、アンガス・タイナー (Angus Tyner) 氏に2013年優秀観察者賞を贈呈しました。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

## 台北ーオープンデータ会議の資料公開される

台湾GBIFノードであるTaibifでは、[2013年生物多様性・生態系研究におけるオープンデータ国際会議](#)で発表されたスライドのウェブ公開を開始しました。

この会議は、台湾の科学者、研究者、学生の他、国際的な専門家を含め、100名を超える参加者により、11月20～22日に開催されました。この会議と併設して、[GBIFインテグレートッド・パブリッシング・ツールキット](#) (IPT) を用いてチェックリストや生物分布データを公開する方法に関する訓練ワークショップが開催されました。

## 地理情報参照システム操作法の学習コンテンツがオンライン化

地理参照のやり方について解説したプレゼンテーション資料、ビデオおよび演習教材がひとまとめになって、[GBIFスペインのバーチャル教室](#)から入手可能になりました。

この教材は、GBIFスペインが2013年10月に実施したオンライン・ワークショップによるものであり、自然史コレクションデータに地理情報を参照するソフトであるGEOLocateの使用法を解説したものです。

2009年から2010年にかけて開催されたセミナーのビデオや発表資料の他、最近作成されたスクリーンキャスト（コンピュータ画面を録画ツールで録画したビデオ）を組み合わせて、訓練用パッケージとして作成されました。

## 公募情報

### GBIF事務局が科学ライター募集

GBIF事務局では、GBIF活動の意義を読者に生き生きと伝えることができる科学ライターを募集しています。

英語（GBIFの公用語）による優れた文章力・コミュニケーション能力の他、最低5年間のジャーナリズムや広報活動従事経験が必要となります。科学分野の編集に従事した経験を有することが望ましく、勤務地は、デンマーク・コペンハーゲンとなります。転居費用の負担制度あり。

詳細は、[こちら](#)。

## 今後のイベント予定

第10回 GEO 総会および大臣サミット  
2014年1月15～17日、スイス、ジュネーブ  
詳細は、[こちら](#)。

Pro-iBiosphere 会議  
2014年2月10～13日、ドイツ、ベルリン  
詳細は、[こちら](#)。  
10月開催ワークショップの報告書は、[こちら](#)。

生物種形質語彙に関する EMODnet ワークショップ  
2014年2月12～13日、フランス、パリ  
詳細は、[こちら](#)。

*GBIF の Vision : 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。*

GBIF 本部

Universitetsparken 15  
DK-2100 Copenhagen Ø  
Denmark  
<http://www.gbif.org/>

*GBIF の Mission : 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。*

電話 : +45 35 32 14 70

Fax : +45 35 32 14 80

E-mail: [info@gbif.org](mailto:info@gbif.org)

過去の GBits ニュースレター・アーカイブ :  
<http://www.gbif.org/newsroom/newsletter>